

武蔵野市立第六中学校 学校診断・生徒調査 分析レポート

～ 学力・学校生活・人権意識の現状と今後のステップ～

対象：教員・保護者の皆様 | 令和8年度 全国学力・学習状況調査結果より

【最重点項目】人権・尊重意識と人間関係の分析結果

本校生徒の大きな特徴として、**高い自己肯定感と人権に対する強い意識**、そして**良好な友人関係**が挙げられます。一方、多様な意見の受容や大人への相談においては課題も見られます。

自己肯定感(自分に良い所がある)

90.5%

都平均 84.7% / 全国 84.0%

いじめ絶対不可の意識

93.7%

都平均 94.2% / 全国 95.1%

友人関係への満足度

90.5%

都平均 91.1% / 全国 91.2%

困っている人を助ける

92.0%

都平均 90.1% / 全国 90.8%

人権視点での分析ポイント：

- ・高い「自己肯定感」と「相互扶助意識」：「自分にはよいところがある」と回答した生徒が90.5%（「当てはまる」52.4%）と非常に高く、先生に認められていると感じる生徒も90.5%にのびります。困っている人を助ける意欲も高く、温かい人間関係の基礎ができています。
- ・「違う意見の尊重」における課題：「自分と違う意見について考えるのが楽しい」は73.1%（都平均79.4%）、「学級で違う意見を言っても否定されない」は63.4%（「当てはまる/どちらかといえば」合計。否定的に見る生徒も存在）にとどまり、多様な価値観を認め合う寛容さの育成が今後のテーマです。
- ・大人・学校への「相談の心理的ハードル」：「不安や困りごとを先生や大人にいつでも相談できる」は66.6%（都平均72.2%）であり、約33%の生徒が相談しづらさを感じています。SOSを出しやすい環境づくりが必要です。

六中の「長所（強み）」と「短所（課題）」のまとめ

六中の長所（強み・伸ばしたい点）

- ・極めて高い学力水準：英語・国語・数学の全教科で東京都・全国平均を大幅に超える平均正答率・IRTスコアを獲得。特に英語の最上位層（IRTバンド5）が15.9%（都9.2%）と顕著。
- ・学習意欲と自立学習の習慣：平日2時間以上勉強する生徒が69.8%（都39.0%、全国30.1%）と突出。自ら考え工夫して学ぶ意欲が高い。
- ・家庭でのコミュニケーション充実：保護者と「学校の勉強について話す」割合が82.6%（都75.9%）と高く、家庭の教育的サポートが手厚い。
- ・表現力・ICT活用への自信：プレゼン資料作成の自己効力感（81.0%）や総合学習での発表活動が盛ん。

六中の短所（課題・改善したい点）

- ・多様な意見の受容・対話への抵抗感：自分と異なる意見の議論を好む生徒（73.1%）や学面で異論が否定されないと感じる割合が都・全国より低め。
- ・教員・大人への相談傾向の低さ：不安や悩みを先生・大人に相談できると答えた生徒（66.6%）が都・全国より低く、支援の届きにくさがある。
- ・タイピング・文章入力スキル課題：「ICTで文章を作成できる」という生徒が都・全国と比べ極めて低い回答傾向を示している（入力指導が必要）。
- ・地域貢献・社会参画意識のやや低さ：地域社会を良くしたいと考える生徒が68.3%（全国72.3%）とやや控えめ。

学力・学習状況の客観データ（全国学力・学習状況調査）

教科	指標	六中（本校）	東京都（公立）	全国（公立）	評価・特徴
英語3技能	平均正答数 / IRT	4.6問 / 555点	4.3問 / 530点	3.7問 / 499点	非常に高い 都・全国を大きく超過
	最上位層（バンド5）	15.9%	9.2%	5.9%	上位層の厚みが際立つ
国語	平均正答率	72.0%	68.0%	63.9%	高い 読解・表現ともに良好
	上位層（12～15問）	47.6%	40.1%	34.5%	安定した国語力
数学	平均正答率	70.0%	62.0%	57.0%	非常に高い 平均点が非常に高い
	上位層（13～16問）	38.0%	35.4%	29.1%	数学的思考力・解法力が高い

生徒質問紙調査から見える生活・学習習慣

学習時間・習慣の強み

平日・休日ともに家庭学習に時間を費やす生徒の割合が高いです。

- ・**平日の家庭学習（2時間以上）**：六中 **69.8%**（都 39.0% / 全国 30.1%）
- ・**休日の家庭学習（2時間以上）**：六中 **52.4%**（都 39.5% / 全国 29.9%）
- ・**自力での学習工夫**：「分からないことを自分で工夫して学ぶ」が **79.4%** と高く、自主的学習の基盤が確立しています。

メディア利用と生活リズム

基本的な生活習慣は保たれていますが、デジタル利用には配慮が必要です。

- ・**基本的な生活習慣**：起床（92.1%）、就寝（58.8%が一定）、朝食（88.9%が毎日摂取）は良好。
- ・**スマホ・SNS等の利用**：平日2時間以上利用する生徒が **70.4%**（都 72.9%）。学習時間とのバランス管理が今後の課題。

教員・保護者が一丸となって取り組む「今後の方針」

1. 【人権教育・学級経営】多様な意見を認め合い、誰もがSOSを出せる学校づくり

- ・**多様な見方・考え方の価値化**：授業や学級活動の中で「異なる意見」を排除せず、「そういう考え方もある」と受容する対話型セッションを増やします。
- ・**相談体制の強化とハードル軽減**：アンケートや定期的な面談だけでなく、日常の些細な変化に気づき、教員・スクールカウンセラー・保護者が連携して「いつでも頼れる安心感」を提供します。

2. 【学習・ICT支援】自立的な学力をさらに伸ばし、スキル面を補完

- ・**高度な探究学習の継続**：高い学力と自立学習の意欲を活かし、問いを立てて課題解決する対話的・主体的な学びを推進します。
- ・**ICTスキルの実践的指導**：タイピングやICT文章作成に対する苦手意識の解消に向け、タイピングの練習機会やICTを用いた作文・まとめ作業を意図的に取り入れます。

3. 【家庭・地域の連携】対話の継続と社会参画意識の醸成

- ・**家庭での対話の継続**：「学校の勉強」だけでなく「友達関係」や「困りごと」についてもフラットに話せる雰囲気家庭と学校で連携して育みます。
- ・**地域社会との接点づくり**：ボランティアや地域行事への参加機会を通じ、自分の学びや行動が「社会の役に立つ」という実感（社会参画意識）を高めます。